

例会日：毎週木曜日 12 時 30 分
 例会場：岐阜県郡上市八幡町小野 67 (八幡建設 2F)
 TEL (0575) 67-0314 FAX (0575) 67-0005
 E-mail: rc-8man@abeam.ocn.ne.jp
 URL: http://gujohachiman-rc.com/

会 長：西川 昇
 副 会 長：村土時男
 幹 事：岩尾 誠
 広報委員長：森下 光
 会報担当者：國田大雄・前田伊三夫

2017 年度国際ロータリー会長：イアン・ライズリー (Sandringham ロータリークラブ・オーストラリア)
 2017 年度国際ロータリーテーマ：ROTARY: MAKING A DIFFERENCE (ロータリー：変化をもたらす)

＜本日のプログラム＞

第 2522 回 平成 29 年 9 月 7 日 第 1 木曜日
 月見例会 (親睦委員会担当)

＜次回の予定＞

第 2523 回 平成 29 年 9 月 14 日 第 2 木曜日
 長期計画全体会議 (和田英人長期計画委員長)
 (羽田野優男 50 周年実行委員長)

＜前回の記録＞

第 2521 回 平成 29 年 8 月 24 日 木曜日
 外来卓話 岐阜ダルク 施設長 遠山 香様

司 会 進 行 西村 肇 SAA

点 鐘 西川 昇会長

ソ ン グ それでこそロータリー

来 客 紹 介 竹内巧治会員
 岐阜ダルク 施設長 遠山 香様

出 席 報 告 畑中伸夫担当責任者

会員数	出席	補正	合計	出席率
39名(免除1名)	30名	7名	37名	97.4%

ニ コ ボ ヲ X 廣瀬泰輔担当責任者

- 岐阜ダルク施設長 遠山香様を歓迎申し上げます。 西川 昇
- 岐阜ダルク 遠山様、卓話よろしく申し上げます。 岩尾 誠
- 岐阜ダルク施設長 遠山香様、本日は当クラブによろこそおいで頂きました。 竹内巧治
- 岐阜ダルク施設長 遠山様、本日の卓話、ご苦労様です。 村土時男
- キャンプ場では生ビールをありがとうございました。 畑中伸夫
- 岐阜ダルク施設長 遠山香様、よろこそ郡上八幡ロータリークラブへ。歓迎致します。卓話もよろしく申し上げます。

羽田野優男・平岩憲政・廣瀬泰輔・岩出明喜
 河合 修・小板慶一・國田大雄・松森 薫
 松良 努・三原慎也・水上成樹・森下 光
 西村 肇・小笠原正道・奥村芳弘・酒井智義
 坂本 仁・田代東次郎・渡邊 剛・山川直保

幹 事 報 告 岩尾 誠幹事

- ・米山奨学会より、ファイル共有サービス名変更の影響について
- ・東海北陸道グループ伊佐地ガバナー補佐より、資料送付の依頼
- ・郡上かるた大会実行委員会より、「第 6 回郡上かるた大会」協賛のお願い

委 員 会 報 告

- ・酒井智義青少年奉仕委員長
 先日、西川会長から話があったように、野外行事に参加して頂いた子供さんに感想文または絵日記を書いて提出して頂きたいと思います。記念として図書券を贈呈したいと思います。9 月 7 日の第 1 例会までをお願いします。

会 長 の 時 間 西川 昇会長

今月も先月に引き続きいろいろな行事が続いており、特に今週は連日の例会変更にもかかわらず、皆さんご出席頂きありがとうございます。10 日の物故者法要では、歴代の会長さんの意志を継承した行事であったと思います。各家庭においても、お盆に家族そろってお墓参りというのが難しい時代に、例会において会員一同が物故者の法要が出来た事は素晴らしいことだと思います。私達がこうしてロータリー活動ができるのも、物故者の

方々が遠いところから見守って頂いているからだ
と思います。20日の野外行事は、天候にも恵まれ、
事故や怪我もなく終える事ができました。会員皆
様のご協力のおかげ、また河合会員には特にお世
話になり感謝申し上げます。子供たちがあまごを
追いかける姿を見ていると、田山ガバナーが申し
られている「未来を創造しよう」ということに繋が
ってくる、大変意義ある行事であったと思います。
翌日 21 日の社会奉仕例会、慈恵中央病院さんの盆
踊り大会にも、多くの会員にご出席頂き有り難う
ございました。今後ともまだ行事がいろいろあり
ますが、ご協力の程よろしくお願い致します。

外 来 卓 話 岐阜ダルク 施設長 遠山 香様



最近、テレビで芸能人の薬物問題をやっている
と、ダルクという言葉が耳にされるとありますが、
現在ダルクは、全国に 70 ヶ所以上あり、増え続け
ています。そんな中で岐阜ダルクは 37 番目に出来
ました。当事者がダルクで良くなって、地元へ帰
ってダルクを作り広がっています。ダルクの責任
者は全員薬物依存症の当事者でした。私自身も重
度の薬物依存症者です。私は覚せい剤でしたが、
使わなくなって 16 年が経ちました。今も薬物の欲
求は時々おこります。治療を受けることによって、
どんな時に薬物の欲求がおこるのか、引き金にな
る状況がよくわかってきます。また、ダルクに来
る人達と関わることによって、自分がやめ始めの
頃はどうだったかを忘れないでいられますし、自
分を手渡されたものを、その人たちに手渡してい
くというのがダルクの活動です。ダルク (D A R
C) は、ドラッグの D、アディクション(依存)の A、
リハビリテーションの R、センター(施設)の C の
造語です。フランスのジャンヌダルクのダルクを
とった造語です。ダルクが増え続けているのは、
それだけ依存症者が増え続けているということな
ので、好ましいことではありませんが、覚せい剤
は今や中・高校生にまで広がっていますし、イン
ターネットで簡単に手に入れることができる時代
になっています。

私は 16 歳の時にシンナーと出会ってしまいま
した。当時は蛇に睨まれた蛙のように逃げ出す事
も出来ず、断る勇気もなく、嫌われたくないとい
う思いでした。そして高校 2 年生の時に覚せい剤
を使う様になりました。自分の人生なんてどうで
もいいやと思っていた頃でした。あっという間に

高校へ行けなくなり、鑑別所に入ったり、裁判を
受けたりする状況になりました。当時は、反社会
的な人からしか薬は入らなかったもので、鑑別所
に入ることによって、反社会的な人と縁を切るこ
とは出来ました。そして、一旦薬とは縁が切れたか
にみえましたが、今度はアルコール依存になって
いきました。17 歳で高校を中退し、しっかりした
仕事に就いたこともなく、飲み屋さんで働くよう
になり、アルコールがやめられなくなりましたが、
飲酒による車の事故をきっかけにやめる事ができ
ました。それからお酒も薬もやめていましたが、
結婚した男性がアルコール依存で、暴力をふるわ
れ、毎日が修羅場という生活が 10 年続きました。
別れたいと思いながら口外できず、両親にも話せ
ず、夫がアルコール依存なのは自分のせいだと思
っていました。共依存という一種の病気です。そ
んな生活に疲れ果てて 30 歳になった頃、名古屋
の街に覚せい剤が出回る様になり、週刊誌でそこへ
行ったら薬が買えると知って薬に手を出す様にな
ってしまいました。それからあっという間に毎日
使う様になりました。薬理作用とって、薬の量
がどんどん増え、少しの量では足りなくなってい
ました。私はダメな女と思っていたのが、薬を使
うと、自分が素晴らしい人間になった気になり、
夫が酒を飲むのは私のせいではなく、夫のせいだ
と思えるようになりました。薬の高揚感により、
夫に別れることを切り出せ、子供を引き取って別
れましたが、夜眠れない、食事が食べられないと
いう状況になっていました。顔色が悪く、痩せて
いく私の姿を見て、子供の友達のお母さん方に心
配されました。私は自分のやっていることは分か
っていましたが、どういう状況になっているのか
は分かっていませんでした。なぜ周りが心配する
のか分からなかったのです。しばらくすると幻
覚・幻聴が起こる様になりました。痩せて、体の
色も真っ黒になって、心配した友達が離れている
両親に私の事を話しました。そして、両親に精神
病院に入れられましたが、本当のことは医師に話
さなかったもので、3 カ月経って退院した後また薬
を使い始め、今度は警察に逮捕されましたが、ま
た 3 ヶ月後には薬を使っていました。なぜ、私は
こんなことを繰り返すのだろうとわけが分からな
くなって自分を責め続け、今度は自殺未遂が始ま
りました。

2 人の子供を両親に預け、薬を求めて歩く生活
をしていた時、図書館で「薬物依存は病気です」
という本を見つけました。その本は、東京のダルク
を作った人が書かれたもので、依存症の症状や、
やめられないのは意志の問題では無く、病気だか
ら治療をしなければならぬと書かれていてびっ
くりしました。ずっと自分は意志が弱いからだ
と思っていたので、すぐに名古屋ダルクさんに駆け
込みました。そこでは 1 日 3 回のミーティングを
します。今まで薬を使って何をしてきたか、自分

は薬をやめるためにどうするのか、これからどう生きたいのか正直に話します。それはディスカッション方式ではなく、言いつばなし、聞きつばなしです。自分が正直になるミーティングです。午後からは1時間半の運動、夜は社会復帰した人達が行く自助グループに参加しました。そこで、初めて薬物を使っている人達の正直な話を聞いた私は、社会では私は落ちこぼれだと思っているけど、ダルクの中では私はまだやり直せるのではないかという気持ちになり、ダルクに通うようになりました。それから薬が止まりだし、依存症から回復することが出来ました。ダルクでのリハビリが終わり、ヘルパーとして働き出しました。私は評価を求めてもっと仕事をしたい、頑張りたいと思って薬を求めてしまうということが分かってきたので、必ずミーティングに出ていました。そして5年ほど経ち、岐阜にダルクを作る話があり、一緒に立ち上げることになりました。今から14年ほど前のことです。立ち上げるに当たって、あらゆる所に行って寄付金を募り、頭を下げて回ったことが自立の一步だったと思います。「自分に出来る事があなたにもある。君が薬物依存だったのは変わらない事実だ。僕は薬物依存になって良かったと思っている。そのことで、自分の人生のいろいろなことに気づくことが出来たし、今まで見た景色と違うものが見られた。ダルクの仕事をするのは、薬物をやめるのに効果があるから、一緒にやらないか。」と名古屋ダルクの人に言われました。その後、新聞等で取り上げられるようになった時、私が薬物依存であることを公表し、ダルクで働く事を両親はとても反対しました。私が公表することで、子供たちがどんな目に合うか、可哀想だと言いました。子供達は14才と16才になっており、二人に薬物の話をすべて話し、ダルクを立ち上げようと思う話をしました。すると、上の子は私が薬物を使っていたことを知っていると言い、下の子は「お母さん、有名人になるね」と言って、ダルクを立ち上げることについて理解をしてくれたようでした。

ダルクの活動については、先ほどお話したように、ミーティング・運動プログラムの他に、刑務所へメッセージに行ったり、学校・教会など地域の中での講演活動を行なっています。今の子供達はインターネットでいろいろな情報を知っており、私達の生々しい体験談は、以前は、寝た子を起こすから止めてくれと言われることもありましたが、今は静まり返って話を聞いてくれます。興味があるのか、びっくりしているのかわかりませんが、あとで感想文を送ってもらおうと、実は友達が薬をやっているというようなこともあります。講演活動をさせて頂く事で、私達の体験談が社会の人の役に立てばよいという思いと、自分自身がひどい体験をしたということを忘れない、そして薬物をやめ続けることになると思っています。本日も、

こうしてお話をさせて頂く機会を与えて頂き、とても感謝しています。

現在、岐阜ダルクには、11名のアルコール・薬物・ギャンブルの依存症者がリハビリをしていますが、このような体験談を、今後、また郡上でお話しする機会を作って頂けたらと思いますし、是非ご支援を頂けたらと思います。今日はありがとうございました。



今後の例会予定

- 9月 7日(木) 月見例会(通常例会)
- 14日(木) 長期計画全体会議
和田英人委員長
羽田野優男 50周年実行委員長
- 21日(木) 会員卓話(坂本仁・遠藤主税会員)
- 28日(木) 外来卓話(東海財務局様)
- 10月 5日(木) 会員卓話(西村肇・山下友幸会員)
- 12日(木) 奉仕作業(郡上警察署にて)
- 14日(土)・15日(日) 親睦旅行(地区大会)
(19日を例会変更)
- 26日(木) 会員卓話
(小坂慶一・前田伊三夫会員)